

地域づくりアンケートの結果から

840人のアンケート結果から地域で何が困っており、何ができることなのかを把握し、これからの地域づくりには何が必要なのかを考察した。

地域づくりアンケートの結果から

<目的>

和歌山市のある地区における将来への不安、近所との交流、助け合いへの意識を把握し、今後どのような地域づくりを行っていけばよいかを考察する

宇都宮病院 事務長

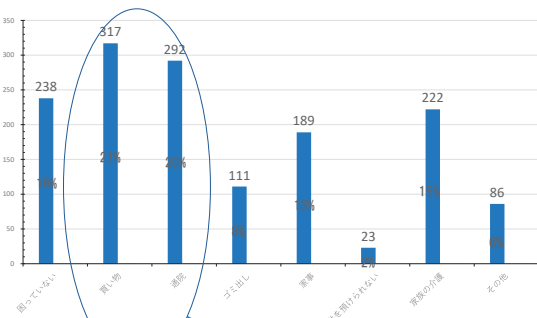
第2層生活支援コーディネーター江川栄輔

<方法>

自治会の協力を得て、全世帯8,500枚のアンケートを回覧にて配布し、郵送により840枚を回収(回収率10%)

<結果>

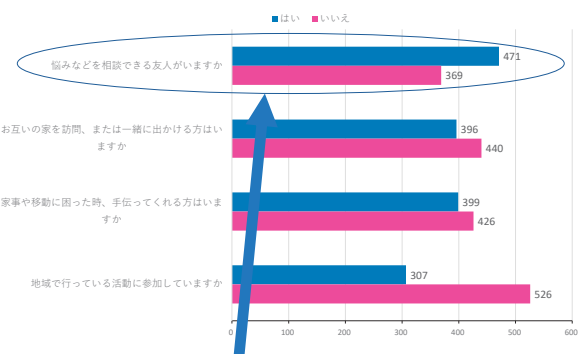
問1. 5年・10年後、日常生活の中でどういったことに困っていると思いますか



問1では将来の困りごとを質問し、買い物に317名、送迎に292名が困ると回答した。

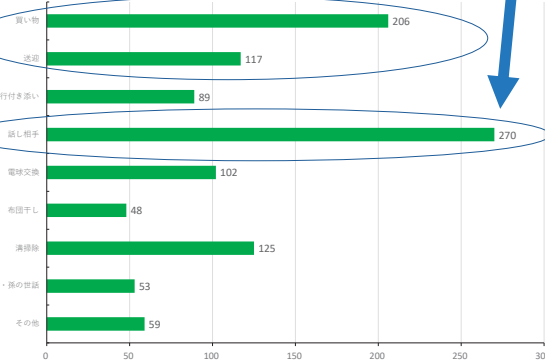
一方、問3でお手伝いについて質問し、買い物は206名、送迎は117名、お手伝いできると思っている人がいる。この方々が出会うことができれば、多くの困り事が解消するのでは。

問2. ご近所との交流について教えてください



問2ではご近所との交流を質問した。悩みなどを相談できる友人がいる人は471名であった。一方、友人がいない人が369名となった。問3のお手伝いについての質問では、話し相手のお手伝いのできる人が270名であった。この方々が出会い話し相手になることで解消するのでは。

問3. もしお手伝いできる、または手伝いたいものはありますか



<考察>

このアンケート結果から、地域の困り事(需要)とお手伝いしたいという気持ち(供給)があるが、マッチしていないことが推測される。これを解消するためには、需要と供給が合う時・場所が必要となる。それには地域の居場所が最適と考える。体操でもサロンでも、なんでも良い。そこに行けば誰かがいる。そこで需要と供給が合う居場所作りがこれからの地域づくりに必要なことだと、このアンケートから考えられた。



このアンケートで約120人の方がボランティア等に参加したいと回答くれました。その方々が集まって、助け合い体験カードを使ってワークショップをしました。